

安芸市赤野地区

地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

1. 実施日時：令和6年9月20日（金）14:00～16:00

2. 実施場所：安芸市立赤野公民館2階ホール（安芸市赤野乙44番地）

3. 参加者：地域の担い手等（12名）
JA高知県安芸営農経済センター等（2名）
高知県安芸農業振興センター（2名）
安芸市農林課（1名）

計17名

4. テーマ：「赤野地区が目指す農業の将来像」

5. 会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

- ・当地区の農地は高低差があるため、水路等の維持管理などのために土地改良区に専属の職員を配置しており、そのため組合員の賦課金が高額になっている。
- ・災害発生時には、農地への津波リスクが危惧されている。
- ・市全体の新規就農者は堅調に推移しているようが、当地区への入作は少ない。
- ・後継者はいるが、その配偶者となる人がいない。
- ・地区内には耕作放棄地が多く、近隣農家が無償で草刈等の管理を行っている。
- ・地域での新規就農者の定着には住宅確保が必要だが、地域内には賃貸住宅はなく、また住めるような状態の良い空き家もない。
- ・離農者の増加は農地の荒廃とともに、地域の農業生産力の低下を招いている。

②課題解決に向けた取組

- ・農家の努力が及ばない環境面への行政施策を検討。（賦課金低廉化支援等）
- ・耕作放棄地へ市がハウス団地をつくり、転職等の希望者に無料で貸し出す。又は、レンタル菜園を整備して非農家が家庭菜園として農地を維持管理する。
- ・山間部などの条件が悪い農地は薪や備長炭の材料用に植林してエリア分けする。
- ・耕作放棄地は放牧地、もしくはエリアを囲ってイノシシやシカの住処にする。
- ・山際の農地は柚子を植えて産地化する。
- ・生涯現役を実現するため、軽くて収益性の高い品目の導入を検討する。
- ・津波被害からの早期復旧に向けた対策を検討する。また、新規就農者には被害想定が少ない農地を優先的に割り当てる。
- ・地域で採れた米やナスの漬物、味噌汁を提供する食事処や、良心市のような場所を整備して生産者の収入増加を推進する。
- ・遊休農地の作業委託を市が一元的に管理等、持続可能な体制を整備する。
- ・新規就農者や農業法人従業員向けの賃貸住宅確保に向けた空き家改修を推進。
- ・農業法人による離農者の雇用推進。（生涯現役で働ける環境確保）

【座談会の様子】

《第1班》



テーマ 赤野地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No.	こんな地域農業を実現したい！
1	エリアわけ
2	耕作放棄地 解消
3	もうかる農業 実現



■班内で出された意見■

- ・この地区は農業用水が少なく、土地改良区の賦課金も高くなっている。
- ・基盤整備による大区画化や水利機能の向上で安定した栽培ができるようにしたい。
- ・耕作放棄地をなくすため、農地の出し手と受け手をマッチングする体制を整える。
- ・高齢になってもいつまでも農業に従事できるよう他の品目も導入したい。（ほうれん草など軽くて収益性の高い品目）
- ・当地区では津波浸水が想定されるため、災害に強い場所に農地を造成する必要がある。
- ・無理して耕作放棄地を解消しようとせず、山間部などの条件が悪い農地は薪や備長炭の材料用に植林してエリア分けを行えばどうか。
- ・耕作放棄地は放牧地にする。もしくはエリアを囲ってイノシシやシカの住処にする。
- ・地区内に条件の良い空きハウスはない状況。市全体では新規就農者数は堅調に推移しているようだが、新たな担い手が利用できる農地とハウスが必要。
- ・年齢に関係なく、楽しく農業を続けることができるシステムづくりが重要。
- ・作物の値段は上がらないのに農業資材は高止まりが続いており、経営継続が厳しい。
- ・もうける農業が実現すれば、新規就農者も自然と集まってくる。

《第2班》



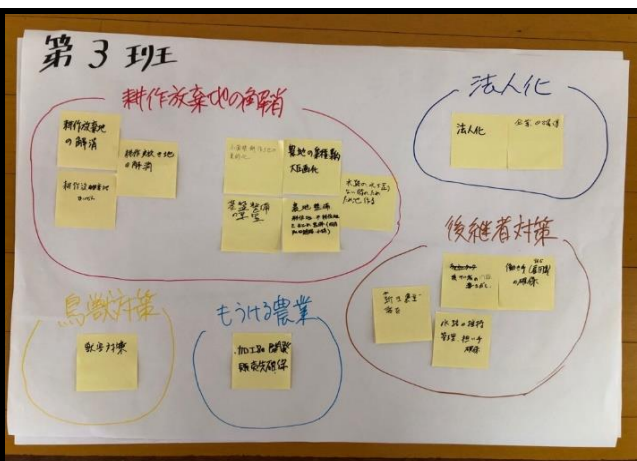
テーマ 赤野地区が目指す農業の未来像	
第2班	
No. 1	こんな地域農業を実現したい！
No. 2	実現するための方法
1	地域を元気づける農業者の育成
2	土・花きの栽培、販売の強化
3	農地の維持



■班内で出された意見■

- ・親元以外の新たな担い手が就農しやすい地域を目指す。
- ・空き家対策と新規就農者とをマッチングする取組が必要。
- ・耕作放棄地へ市所有のハウス団地をつくり、転職を希望する新規就農者に無料で貸し出す。又は、レンタル菜園を整備して非農家が家庭菜園として農地を維持管理する。
- ・山里の条件不利農地は行政主導で農地から除外する。
- ・山際の農地は柚子を植えて産地化する。
- ・狭い農地でも稲作が継続できるよう、米価が上がるような取組を望む。
- ・地域で採れた米やナスの漬物、味噌汁を提供する食事処がほしい。
- ・良心市のような場所を整備して生産者の収入アップを支援する。
- ・当地区の水利費は他地区に比べて高い。こうした不平等を是正する施策があれば良い。
- ・農家の努力が及ばない環境面への行政施策を検討してほしい。
- ・津波対策の強化。被災後は塩水被害が想定されるため、復旧のための対策を検討する。また、新規就農者には被害想定が少ない農地を優先的に割り当てる。
- ・ナスのブランド化を推進して農家の収入増につなげる。
- ・地域で計画的に世代交代ができる仕組みを検討する。
- ・いつまでも女性や若者が元気で賑やかな地域であってほしい。
- ・生涯現役を支えるサポート体制を構築する。

《第3班》



テーマ 赤野地区が目指す農業の将来像	
第3班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 耕作放棄地の解消	農地の集積・集約 基盤整備
2 後継者対策を進める	法人化を進める 新規就農者 後継者対策 電柵等
3 鳥獣対策	



■班内で出された意見■

- ・基盤整備により耕作地と非耕作地をまとめて大区画化することが重要。
- ・地域での加工品の開発と販売先の確保に取り組んではどうか。
- ・平地でもハクビシンなどの鳥獣被害が深刻化しており対策が必要。
- ・ため池など水利確保のための施設整備を検討する。
- ・法人化の推進と大規模経営企業の確保を進める。
- ・臨時雇用など、労働力が足りない時に安定して雇用できるような体制が必要。
- ・後継者はいるが、その配偶者となる人がいない。若い農家の出会いの場をこまめにつくる後継者対策を進めてほしい。
- ・土地改良区の賦課金が高い。他の市町村では行政からの支援で安く抑えられていると聞く。
- ・賦課金は非耕作地になると多少安くなる。改良区を抜けるには清算金が必要。
- ・耕作放棄地の管理が不十分で地域の景観や周辺の農地に悪影響を及ぼしている。
- ・地域における新規就農者の定着には住宅確保が重要であるが、地域内には賃貸住宅はなく、また住めるような状態の良い空き家もない。
- ・重労働が原因による離農が発生している。農地の荒廃とともに、地域全体の農業生産力の低下を心配している。